
やきもち

英子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やきもち

【Nコード】

N6939Y

【作者名】

英子

【あらすじ】

大まろです。ですが、今回は花輪が絡んでいます。

大野君がやきもちを焼く話です

（前書き）

大まろです。

大野君が焼き餅やきまくりです。

教室で、大野は苛立っていた。

（あんだよ…。さくらと花輪が仲良くしゃべりやがって…）

そう、イライラの原因は花輪とまる子が仲良く話していたことだった。もともと仲の良かった二人だが、最近は花輪のまる子に対する視点が変わっていた。悔しい…。

「おい、大野…、お前、怖い顔してるぞ」

親友の杉山に指摘され、大野は苦笑いしていた。

（本当に情けないんだよな…、俺って）

そこへ、まる子の親友のたまえが

「まるちゃん！ここにいたんだ？探していたんだよ？」

まる子は花輪からたまえへと視点を移した。

「あ、そうなんだ？ごめんね！花輪君、悪いけどあたし、これで失礼するね！」

まる子は花輪から離れた。そのとき、花輪が切なそうにまる子を見つめていたことに気づかず…。

「あ、杉山君と大野君だ！」

まる子は杉山と大野に笑顔で話しかけた。ところが大野はまる子と目を合わせようとしない。

「大野君、どうかした？」

まる子は首を傾げながら、大野に近づいたが、それでもまる子を見ようとはしない。そして、まる子はどうしてかわからないが、寂し

い気持ちになった。

（大野君…、怒っている…？）

「ほら！大野！」

杉山が大野の肩をパンパン叩き、大野はおわっ！とこけそうになったのだ。

杉山の行動に理解したたまえは、まる子たちに

「じゃあ、私たちはこれで失礼するね！」

と笑いかけ、二人の元を去ったのである。

二人きりになった大野とまる子の間に、気まずい空気が流れていた。何かを話さなければ…

「あの…」

二人同時に話しかけたので、思わず吹き笑いをした。

「なんかおかしいな！さくらが落ち込んでいるなんて、さくららしくねえじゃん？」

「だって…、大野君がまる子を見てくれないから…」

大野はまる子の頭をぐちゃぐちゃとなでた。

「ちよつとお！ボサボサになるじゃん！！」

まる子は頬をぷーと膨らませた。

（なあ、さくら…もし俺が花輪とお前が一緒にいるところに嫉妬してたってお前が知ったら、お前は軽蔑するのだろうか…）

大野はまる子を切なそうな目で見つめていた。もちろん、恋愛に鈍感なまる子はそんなことに気付かなかった…。

（後書き）

前回より長くしたつもりですが、文章がまとまっていらない…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6939y/>

やきもち

2011年11月20日21時40分発行